

新宿公民館便り

～つどい まなび つなぐ～

見上げると青空の面積が広い。先週からの急激な冷え込みは、街中のキンモクセイの甘い香りを、あっという間にどこかに消してしまった。スーパーにはサツマイモが並ぶ。かぼちやの天ぷらも美味しい。秋、真っ盛りだ。



おもわれしおん
想 紫苑 ～倒れても起き上がる強さ～



10月の誕生色は野に咲くしおん紫苑の明るい紫。秋の野を代表する花です。「しおん」という美しい名前は漢字をそのまま音読みしたもので、台風に倒れてもいち早く立ち直る花としても知られています。

昔、親を亡くした兄弟がいて、兄の方は忘れ草である萱草かんぞうを、弟の方は思い草といわれる紫苑を、そのお花に植えました。兄は親のことを忘れてしまいましたが、弟の方はいつまでも覚えていたということです。

この話に鬼も感動したので、紫苑は「鬼の醜草しこくさ」と呼ばれるようになったとか。ちょっとひどい名前なのですが、「醜しこ」とは強いという意味なんです。

かよわそうに見えますが、どんなに強い風が吹き荒れても、心には決して忘れない思いを秘め、倒れてもすぐに起き上がる…。

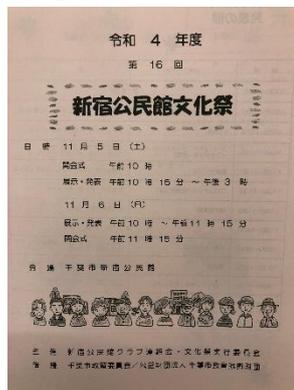
風の強い日は、野でその風に耐えているであろう紫苑の花を想います。

(山下景子「美人の日本語」より)

プログラムおよび実施要項ができました

11月5日、6日に開催される文化祭のプログラムができあがりました。事務室受付に置いてありますので、どうぞお取り扱いください。

また、各サークルの代表者には、実施要項が送付されています。今年の実行委員の役割、前日準備や当日に協力していただける団体の動きも書かれてありますので、よくお読みいただきご確認ください。



令和4年度 第14号
令和4年10月10日(月)
発行 千葉市新宿公民館
住所 中央区新宿2-16-14
電話 043-243-4343

度々申し上げてまいりましたが、公民館は「部屋貸し」のためだけの場所ではありません。主に地域、千葉市民の方の公共の学習施設です。互いに利用する施設を整え、それぞれに学習している成果の発表の場として、互いにより影響を受け互いに賛辞を送りたいものです。お手隙の際には、講堂にてご参観くださいますようお願いいたします。

公民館の利用規制が緩和されます

新型コロナウイルス新規感染者数は、10月8日、千葉県内で739人、千葉市内では200人と発表されました。この一か月間は全国的にも確実な減少傾向です。

公民館の利用については、6月の緩和通知に続き、10月12日付でさらに緩和されることとなります。大きく変わることはありませんが、調理室での対面での黙食が可能になることや、ダンス練習の制限が解除されることは大きな変化です。発声を伴う活動は1m以上離れるといったことが盛り込まれています。

いずれにしても、これまで続けてきた「3密の回避」(密集、密閉、密接を避ける)は今後も続けることは呼びかけられています。また、手洗いや手指のアルコール消毒の励行、マスクの着用、積極的な部屋の換気などは、これまで通り行ってください。

詳しい内容は館内に掲示してありますので、ぜひ一読していただきご確認ください。

ご不便をおかけします

公民館のコンピュータネットワークサーバーを設置している、千葉市中央図書館・生涯学習センターが、電気設備定期点検のため10月24日(月)全館停電になることにより、公民館のコンピュータネットワークが使用できなくなりますので館内の「CHIBA CITY Wi-Fi」が利用できません。したがって、「施設予約システム」が使用できませんので、窓口での予約申請ができません。

また、市内全ての図書館・公民館図書館が休館(室)します。

ご不便をおかけしますが、ご理解、ご協力をお願いいたします。

秋の楽しみ 皆さんは・・・？

「読書の秋」・・・いつ頃から、またなぜそういわれるようになったのでしょうか。夜が長くなって時間があるからでしょうか。確かに通勤の電車の中も暑くはなくなってくるので、かばんに忍ばせてある文庫本のページを時々めくったりしています。読んでみるか、という気になってくるものです。

新聞の社説をご紹介します。読んでみてください。秋の楽しみを新たに一つ、見つけられるかもしれません。

10月8日 天声人語から

東京では、つい先日まで半袖でも過ごせそうな陽気だったのに、一気に秋が深まった。きのう近所では、ハナミズキが赤い実をつけていた。草むらでは、コオロギなど秋の虫がにぎやかに演奏会を開く▼ころころ、りんりん、じーじー。しばし足をとめて、さてここは何重奏ですか、とそおっと耳を傾けてみた。<鈴虫は鳴きやすむなり虫時雨>松本たかし▼虫の音などをあらわす擬音語や「そおっ」のような擬態語は、古くからあったそうだ。平安時代にまとまった今昔物語集を開くと、表現の豊かさに目がとまる。乳飲み子は女の幽霊に抱かれて「いがいが」と泣き、走り去る子供の後ろ髪は「たそたそ」と揺れる▼おぎゃあ、ゆさゆさと現代なら言うところだろう。単語の一つひとつに省長はあれども、当時もいまも同じ音を繰り返すのが基本型だと、日本語学者の山口仲美さんが書いている（『犬は「びよ」と鳴いていた』）。うっかりなどの「〇っ〇り」型は鎌倉・室町時代から、どかーんなどの「〇〇ーん」型は江戸時代になってから現れたそうだ▼型から外れていなければ擬音語・擬態語は新しく作れる。そこが魅力だと山口さんは説く。思えば詩人たちこそ、その達人だろう。中原中也の「ゆあーん ゆよーん ゆやゆよん」。サーカス小屋のブランコの揺れが目に浮かぶ▼今夜、虫の音に耳を傾けてみる。今度はどう聞こえるか。いつもの表現を飛び出し、日本語をさらに豊かに。秋の楽しみが、もう一つ増えそうだ。

主催事業の予定

10月29日(土) 9:30~12:00

「大人の木工工作」~手作りの良さを楽しもう~
木を材料に、花瓶ケースとクリスマスツリーを作る
抽選で12名 参加費 900円
申し込みは 10/14~10/20 電話で

季節の日本語

まなざし 眼差し ~誰かが見守っている~

「視線」や「目つき」と同じような意味ですが、「目つき」→「視線」→「眼差し」の順に、好感度がアップしていくように思います。

眼差しは、目に込められた表情を含む言葉です。

視線は、見るものと見られる対象が合うことを意味し、目つきは、目にすでに備わっている感じをいうのだそうです。眼差しには、心が伴うわけですね。

人は、いつも、誰かの目を無意識のうちに、感じて生きていくものなのかもしれません。たとえば、親、異性、世間一般の人々・・・。

いつも誰かが見守ってくれる・・・。そう思えることが、あなたを輝かせる第一歩。まずは、自分自身を、あたたかい眼差しで、見守ってあげましょう。

(山下景子「美人の日本語」より)

【今日の公民館】



百日草(ジニア)

花言葉

『遠い友を思う』

『いつまでも変わらぬ心』

~草花が少なくなっていく時期。100日間の長きに咲いてほしいですね。

【ちょっとブレイク】

*これは何県？

● ヒント

: 今月は神様がいっぱい

: かつての鉱山は世界遺産

: 大きな砂丘はお隣です

* □に入る漢字一文字 な~んだ？

秋 (ヒントは、14号の絵？写真？)

↓

山 → □ → 草

↓

島



見て食べて 聞いて香るや 秋色彩

(新宿公民館 館長 迎 浩二)